



学長メッセージ

2011年3月11日に発生しました東北地方太平洋沖を震源とする地震により被害を受けられた多くの皆様にご心よりお見舞い申し上げますとともに、亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げます。被災された皆様にはくれぐれも健康に留意され、一日も早く生活が復旧できますこと心よりお祈り申し上げます。

本学においては、被災された学生への支援、被災地への支援に取り組むとともに、大幅な節電を目指した取り組みを進めております。本報告書においては、とくに、その取り組みの状況を冒頭に記述させていただきました。

千葉大学が2004年度に環境マネジメントシステムを導入して以来、7年が経過しました。千葉大学では、大学の環境マネジメントシステムを学生の実務教育機会と捉えて、当初からその活動を単位化しております。学生主体で大学の環境マネジメントシステムを運営する方法は「千葉大学方式」といわれ、他の大学にも広がるようになりました。このような取り組みが評価され、過日、第9回日本環境経営大賞の最優秀賞を受賞することができました。関係者のみなさんに心から感謝いたします。

しかしながら、本報告書に述べているように、千葉大学の環境マネジメントシステムには、まだまだ課題が山積しています。

第一に、省エネ・節水の取り組みが頭打ちになってきたことです。2010年度は、猛暑の影響もあってエネルギー消費量が増加し、これまでずっと減少していた水の使用量もはじめて増加に転じました。大震災にともなう節電の取り組みを契機に、もう一度省エネ・節水の取り組みを強化して参ります。

第二に、化学物質の不適正管理による下水排除基準違反が発生したことです。原因となった研究室に改善を求めるとともに、他の研究室においても類似の問題が起きないように指導を致しました。

第三に、大学の内外における放置自転車対策が急務であることです。とくに駅の近くに広大な敷地をもつ西千葉キャンパスにおいて自転車の駐輪マナーが悪く、その改善が急務となっています。地元関係者との協議会を通じて問題の解決に取り組んで参ります。

以上のような重点事項に取り組むつつ、今後とも、大学における環境マネジメントシステムのモデル事例として注目いただけるように、教職員と学生が一体となって、取り組みを続けていく所存です。

千葉大学長 齋藤 康